活動履歴と今後の予定

1/16 錦町東住宅役員会
1/18 第6回理事会
2/4 BSよしもとシェアハウス撮影
2/6 あすと長町第三住宅みのり会役員会
2/7 高齢者サポートチームしおたがネットワーク会議
2/14 北浜住宅役員会
2/20 錦町東住宅役員会
3/6 第20回つながりデザイン会議
3/14 北浜住宅役員会
3/15 第7回理事会
3/16 あすと長町居住者・支援者連携協議会
3/20 錦町東住宅役員会
3/24 塩竈市ふれあいサポートセンターネットワーク会議

わい Wi-Fi フリースペース つながリッキー、始めました！

●開催日：毎週金曜13：30〜17：00
●参加費：大人100円、高校生以下無料
●設　備：Wi-Fi、共有デスク、ミニキッチン、トイレ
●場　所：あすと長町第二市営住宅集会所（太白区長町6-5-13）
・パソコン・スマホのお困りごとにスタッフが対応！
・子どもたちの放課後の居場所に！
・自習、ゲーム、イベントも！
・一息つきたい、コワーキングしたい、等、用途は色々OK！

◆1月　1/7、1/14、1/21、1/28
◆2月　2/4、2/11、2/18、2/25
※3月はお休みし、4月以降にリニューアルオープン予定です。

誰でも歓迎！

会員数

正会員	賛助会員
30（+1）	27（±0）

facebook いいね！数

565（+9）

2022年3月1日 現在（前号比）

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町から始まり広がった復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆様からの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願いいたします。賛助会費及び寄付金は寄付金控除の対象となります。会員申込みやご寄付は、ネットからもお手続きいただけます。　https://tsunacen.thebase.in/

継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。
・正　会　員：年間6,000円・総会議決権あり
・賛助会員：年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

＜口座名義＞特定非営利活動法人つながりデザインセンター
●郵便振替：02230－8－121908
●郵便振込：ゆうちょ銀行　二二九支店（ニニキュウ）　当座預金　0121908

会員団体のみなさま

@グリーン（宮城大学ボランティアサークル）　SD不動産　NPO法人アートワークショップすんぷちょ　NPO法人 仙台傾聴の会
NPO都市住宅とまちづくり研究会　NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊　NPO法人 みやぎ「こうでねいと」
株式会社ミツイ　共立女子大学 高橋研究室　CASEまちづくり研究所　高齢者配食サービス「ほっと亭」　今野不動産株式会社
社会福祉法人ライフの学校　スタジオまめちょうだい　仙台白百合女子大学 佐々木研究室
仙台南健康友の会　つばさ薬局長町店　東北工業大学 新井研究室　東北工業大学 谷本研究室
東北大学 東日本大震災PGT支援機構　宮城大学 平泉研究室　東北学院大学 坂本研究室　都市建築設計集団/UAPP
長崎大学安武研究室　宮城厚生協会長町病院　宮城大学 森本研究室　有限会社栗駒建業

役員名簿

代　表：薄田 榮一
副代表：新井 信幸
理　事：及川 多香子
理　事：加藤 渉
理　事：松原 久
理　事：宮本 愛
監　事：金沢 和樹
監　事：佐々木 裕子

編集後記

東日本大震災から11年、つなセン設立から5年が経ち、それぞれ状況や役割は大きく変化しています。被災地仙台でも、復興は過去のもの、どこかでやっていることというのが一般的な認識です。つなセンの方は、まだ復興文脈の取り組みがありますが、コミュニティづくりにせよ、居場所づくりにせよ、未来志向で行っています。今くらいから「創造的復興」っていう言い方が馴染むのかもしれません。〈新井〉

認定NPO法人
つながりデザインセンター
〒983-0841 仙台市宮城野区原町五丁目5番35号 熊谷ビル205

TEL　080−3205−5177
MAIL　asuto@tsuna-cen.com
WEB　www.tsuna-cen.com

GOOD DESIGN AWARD 2018

つなセン NEWS

TSUNAGARI Design Center

22
2022.03



夏には緑に包まれるシェアハウス長町南（2019年夏）

集まれる空間をつなぎ続ける

コロナ禍のシェアハウスの日常
Wi-Fiフリースペース（つながリッキー）の提供について
つなセンNEWSのデジタル配信化がはじまります
【団体紹介】仙台市八本松児童館

www.tsuna-cen.com

活動報告

Main Topic

コロナ禍のシェアハウスの日常


▲コロナ前は庭いじりの日はお隣のおばあちゃんも覗きにきてました

1 女性ニーズの高まり

2019年1月に入居開始した、つなセンが運営する「菜園付きシェアハウス長町南」は、広いお庭が特徴の木造一軒家（5部屋）を改修した女性専用のシェアハウスです。NEWS9号(2018.12)で入居開始までの準備期間の取り組みをご紹介しましたが、今回は入居後の様子を振り返ってみたいと思います。現在、シェアハウス長町南には20代から40代の女性4名がお住まいです。これまでに入居された方は退居された方含めて9名（男性2名、女性7名）で、このうちの男性2名はフィリピン、ドイツ出身の方です。入居時点の年齢は20代2名、30代7名、入居期間は平均約10ヶ月（入居中含む）、短い人で2ヶ月（留学）、長い人で約2年となっています。当初は男女区別なく入居募集していましたが、2020年からは女性専用としています。問い合わせや内見は年間20件くらいあり、多くは20代、30代の方からですが、住まいの確保にお困りの60代の方、関東にお住まいで高齢の両親をケアするため週の半分くらい仙台に滞在したいという方もいました。2021年に入ってからは、既婚女性からの相談が4,5件入り、なかには翌月出産するという妊婦の方もいました。これらのほとんどは、先方の希望条件と合わず入居には至りませんでしたが、こうした状況の変化は新型コロナウィルス感染拡大の影響によるものなのだろうと推察しています。


▲コロナ禍はアウトドアでコモンミール（バーベキュー）


▲コロナ前は菜園で採れた白菜などを使って鍋パーティーも

2 さまざまなアクティビティが生まれる場所

運営面では、入居者の方々との日常的なやりとりは、LINEグループを活用して内見の案内や消耗品不足の連絡などを行っています。共用部の清掃は月2回、つなセン会員の「社会福祉法人ライフの学校」に就労支援プログラムの一環として実施していただいています。また、お庭にある菜園は、つなセン会員のYさんの指導のもと、夏と冬の二毛作で野菜を育てて、鍋やBBQなどでみんなで味わうというイベントを年に1、2回やっていましたが、こちらもコロナ禍に入ってからは開催を見合わせていて、現在の菜園は入居者が個人的に栽培するかたちとなっています。

ざっと、入居後からコロナ禍の近況をご紹介しましたが、最近のトピックスとしては、BSよしもとの物件紹介番組の取材があり、お笑い芸人の「バクコメ」さんが来訪されました。その続きで4月1日にも生放送のロケハンが入る予定となっています。詳細はSNSなどでご案内していきます。


▲庭でBSよしもと物件紹介番組のリハーサル（お笑い芸人バクコメさん等）

団体紹介

仙台市八本松児童館



あすと長町の隣接地域にある八本松児童館は、八本松市民センターに併設し、八本松公園にも面した、緑豊かで地域に開かれた児童館です。

つなセンとの関わりは、2019年に松浦大輔館長より、児童館と地域・NPOが手を組む「どんどこプロジェクト」への参画にお声かけいただいたことがきっかけです。2019, 2020年度の2ヶ年にわたり企画協力等をさせていただきました。

2019年度は『子どもたちから発信！まちの防災・減災プロジェクト』と題して、防災キャンプや防災マップづくりを実施しました。2020年度はコロナ禍の影響を大きく受けましたが、どんぐりを通貨に見立てて子どもたちがお店を出す「どんぐりマーケット」や東日本大震災の体験を継承する災害講話などを行いました。

最近では、毎週土曜日に、中高生が自由に使える場所とモノを備えた「エイトベース」を開始しています。

児童館発で、積極的に地域や他団体と関わりを広げる八本松児童館の取組みをこれからも応援しています。

［運営：NPO法人みやぎ・せんだい子どもの丘］

Topics

Wi-Fiフリースペース（つながリッキー）の提供について

あすと長町第二市営住宅集会所にWi-Fiを設置し、集会所利用を促進することを目的にフリースペースの提供（つながリッキー）を昨年10/22から開始しました。具体的にはWi-Fiやスマホに関する相談等を実施するとともに、通常予約制である集会所を毎週同じ曜日にフリースペースとして提供することで、利用者に気軽に利用してもらうものです。事前に住宅内や関係団体及び近隣住宅へ開催案内のチラシを配布し、開催日は集会所に「開催ポスター」を掲示しました。イベントは10月末～2月末までの毎週金曜日午後に延べ18回開催し32名が参加され、スマホ基本操作、アプリ・LINE・ゲーム操作、コロナ接種証明等を確認されていました。参加者は従来お茶会などで集会所を利用していた以外にも口コミで増加し、また複数回利用者も増えるなど開催が定着する傾向となりましたが、一方で、参加者が高齢・女性に集中する状況にあり、イベントの周知方法や開催内容の見直しも必要と感じられました。今後は、これまでの運用状況を関係者で評価し、アップデートしていく予定です。



つなセンNEWSのデジタル配信化（紙面配布は廃止）がはじまります

SDGsの観点（CO2排出量削減など）から、次号以降、つなセンNEWSの紙面での配布を廃止し、デジタル配信化することになりました。今後、新しいつなセンNEWSが発行された場合は、つなセンの公式ホームページやFacebookなどでお知らせする予定となっていますので、ぜひご覧ください。このデジタル配信化により、さらに多くの方に、つなセンの取組みを知っていただけるよう、今後も内容の充実を目指してまいります。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

